

“Dioxin Unforgettable Responsibility! Viet & Duc and World Peace” Dr. N. T. N. Phuong, Prof. Bunro Fujimoto, Prof. Ryotaro Katsura / First News / 2013

藤本 文朗*

2013年8月21日受理

まずは、編者であり、分担執筆を担当した者として、出版の意図を中心とした書評であることをご理解いただきたい。

2002年、私がこの大阪健康福祉短期大学に着任するにあたり、初代学長の高濱介二氏（故人）は、「君が本学に来てくれることで、カリキュラムに国際交流を取り入れることが可能になる」と言われた。本書出版の意図はこの延長にある。加えて、短大で『『平和学』を授業に取り入れたい』と言っていたことも思い出す。

さて、本書の源流は、「ベトナムドクちゃんの発達を願う会」（1985年発足、以下、「願う会」）に端を発する。「願う会」がどのような活動を展開してきたか—詳細は、本紀要の私の退職記念号（『創発』第8号）に文献を含め記されているものを参考にしてほしい。「願う会」は、ベトナム、ドクちゃんはじめ多くのベトナム人民との交流、反戦・平和を願う活動、国境を越えて障害児・者の人権を守る運動へと繋がっていった。

そして、今回、何よりもアメリカの人々に、そして広く世界に伝えたく、英語での出版となった。

1987年、アメリカ人民に訴えるべく『Cheer up Viet and Duc』（かもがわ出版）を出版し、アメリカの図書館に送ったところ、「貧しいベトナムではこのような障害を持つ子が生れるのはあたりまえ。枯れ葉剤と関係ない」という冷たい反応が返ってきた。

あれから20年以上もの時を経て、再び、アメリカ人民に伝えたい。枯れ葉剤は、ベトナム戦争の時にアメリカ軍によって散布された。日本人が、枯れ葉剤をまく飛行機の発着基地が日本（九州・沖縄）にあったことを忘れるわけにはいかないように、アメリカ人民には、ベトナム戦争で枯れ葉剤が散布された事実を決して忘れてほしくない。

出版に際して、アメリカ人民にアピールし理解を得て、アメリカで出版し、出版費用をアメリカ人民の募金で賄おうという意見もあった。私たちは、アメリカの人々に枯れ葉剤散布の結果、さらには今に続く被害の大きさをも知ってほしいと強く思うからである。

結果的には、Dr.Phuongの協力を得て、ベトナムの出版社から2000部、60万円の募金によってようやく出版にこぎつけた。底本は『ベトナムと日本の絆』（新日本出版社、2010）である。今後、韓国、イギリス、アメリカでの普及を考えている。Dr.Phuongによると、ベトナム退役軍人局の人々が、本書の普及を期待しているという。

英語版ではあるが、英語が苦手な人でも読みやすい本に仕上がった。英文執筆は桂良太郎氏（立命館大学国際関係学部教授）の力に頼った。この場を借りて御礼申し上げたい。

高濱学長（初代）の期待に応えるべく本学でも取り組んだ国際交流は、今、「国際理解」という授業となった。ぜひ、本書を参考文献として、学生たちにも紹介してもらいたい。

なお、『創発』第6号は、2006年に行われた第1回日越友好高齢者介護セミナーを特集している。この日本とベトナムの交流セミナーは、今では幼児教育・保育の分野でも行われ、『日越友好学術交流ツアー報告書』にその模様が掲載されている。

*大阪健康福祉短期大学
連絡先：藤本 文朗
〒590-0014 堺市堺区田出井町2-8
大阪健康福祉短期大学 名誉教授